

雌阿寒岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火警戒レベル2（火口周辺規制）が継続＞

雌阿寒岳では、本日（25日）13時17分頃、ポンマチネシリ96-1火口からごく小規模な噴火が発生しました。この噴火による大きな噴石の飛散は確認されていません。また、この噴火の前後で地下の火山活動の状況に特段の変化は認められていません。

火山活動の活発な状態が続いており、今後もポンマチネシリ火口から約500mの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

【防災上の警戒事項】

ポンマチネシリ火口から約500mの範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体などの指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○活動概況

本日（25日）13時17分頃から、ポンマチネシリ96-1火口でごく小規模な噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上の高さ約200mまで上がり北東に流れました。この噴火による大きな噴石の飛散は確認されませんでした。噴火はその後、15時20分頃まで継続しました。

雌阿寒岳の噴火は、9月12日から15日の間に発生したと考えられるごく小規模な噴火以来です。

ポンマチネシリ火口近傍の阿寒富士北2観測点では、9月12日の火山性微動に伴いポンマチネシリ火口方向が上がる傾斜変動が観測されて以降、その後も次第に緩やかになりながら変動が継続し、ポンマチネシリ火口浅部の膨張した状態が続いています。本日の噴火前後にその状況に特段の変化は認められていません。また、ポンマチネシリ火口付近及び雌阿寒岳周辺の火山性地震の状況にも特段の変化は認められません。

○活動評価

ポンマチネシリ火口付近の浅部では膨張した状態が続いており、96-1火口の噴煙活動は引き続き活発な状態です。本日（25日）の噴火前後に、地下の火山活動状況に大きな変化は認められていません。

火山活動の活発な状態が続いており、引き続き、ポンマチネシリ火口から約500mの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図10mメッシュ（火山標高）』、『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』及び『基盤地図情報』を使用しています

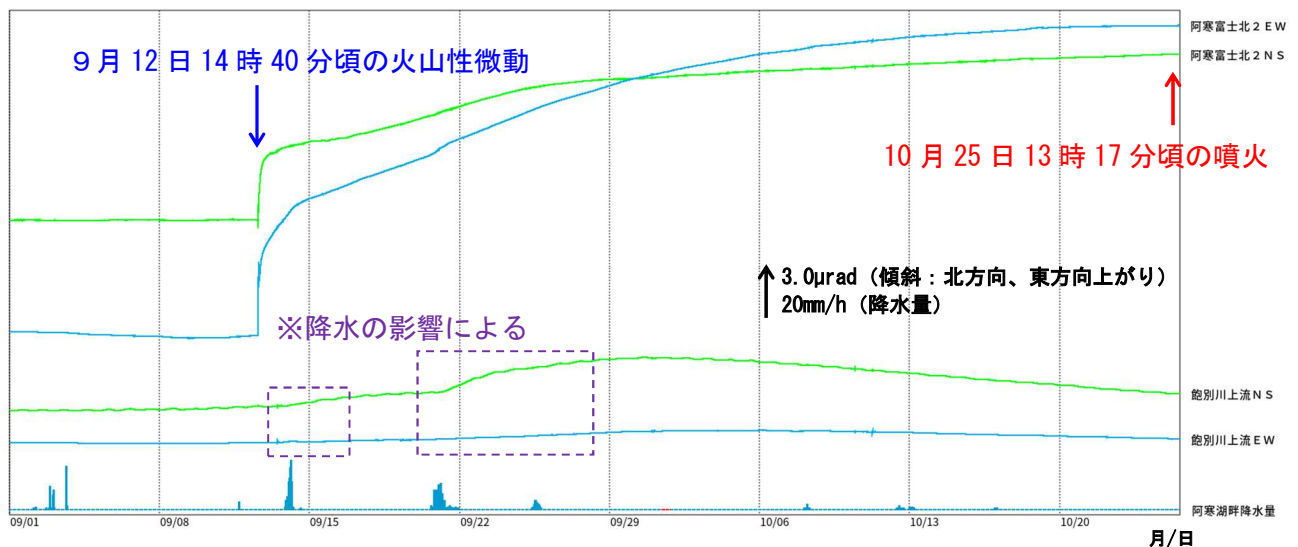
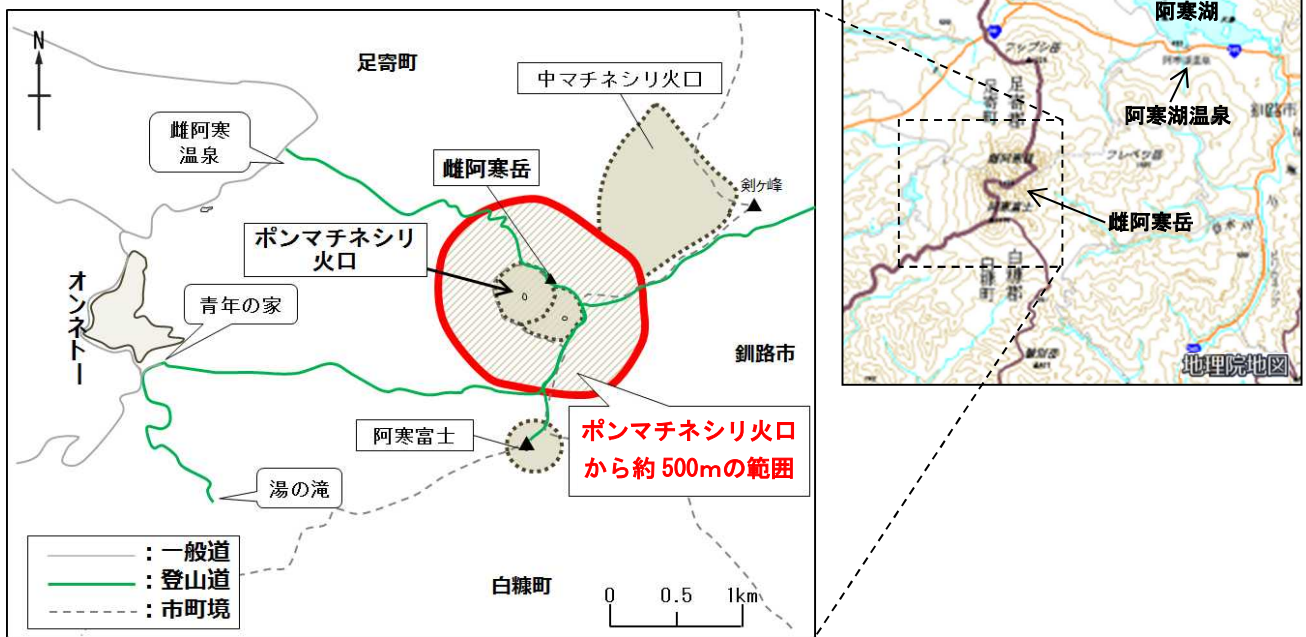


図1 雌阿寒岳 ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙・噴気の状況

上：上徹別監視カメラによる（雌阿寒岳の南東側）

下：阿寒富士北監視カメラによる（96-1 火口の南側）

- ・本日（25日）13時17分頃から、ポンマチネシリ 96-1 火口でごく小規模な噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上の高さ約200mまで上がり北東に流れました。



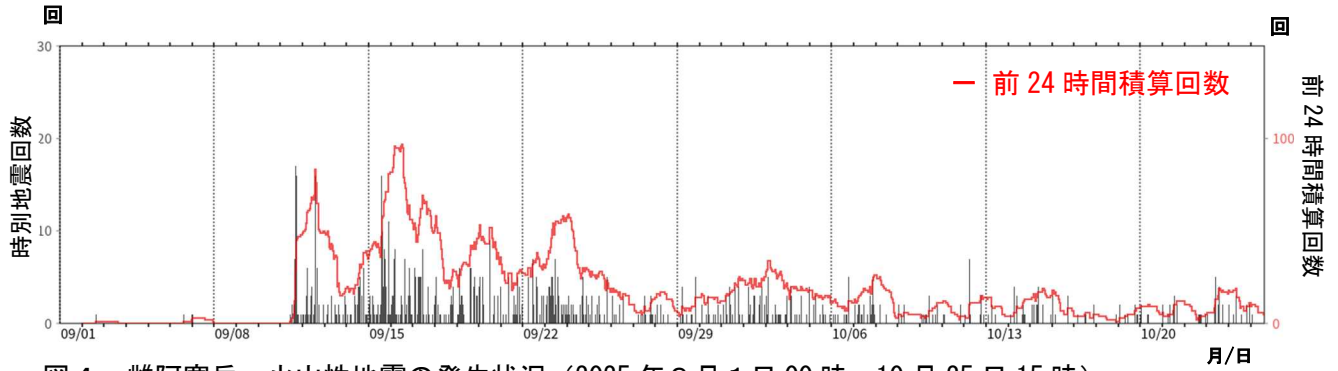


図 4 雌阿寒岳 火山性地震の発生状況（2025 年 9 月 1 日 00 時～10 月 25 日 15 時）
・ポンマチネシリ火口付近の火山性地震は、増減を繰り返しながら継続しています。

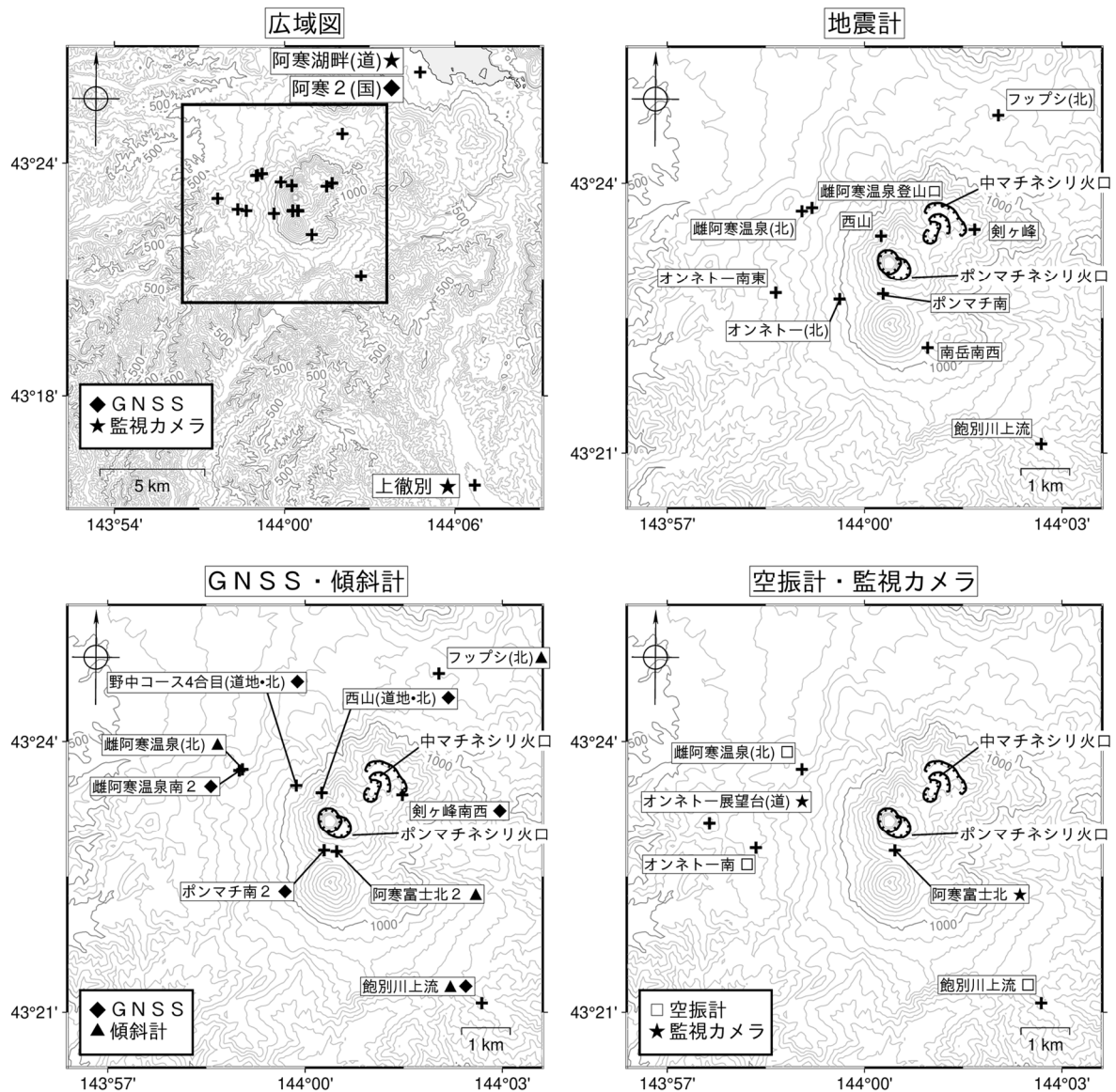


図 5 雌阿寒岳 観測点配置図

各機器の配置図は広域図内太枠線で示した領域の拡大で、+印は観測点の位置を示します。
気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院 (北)：北海道大学 (道)：北海道
(道地)：北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所